

学部等	学科等	①大学・大学院の設置理念		②教員養成に対する理念・構想（大学、大学院）	
		①学科・専攻の設置理念		②教員養成に対する理念・構想（学科、専攻）	
③認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等/免許校種ごと）					
		①大学の「①設置理念」「②教員養成に対する理念・構想」	<p>成蹊学園創立者中村春二が目指した教育理念である「自発的精神の涵養と個性の発見伸長を目指す真の人間教育」を踏まえ、知育偏重ではなく、人格、学問、心身にバランスのとれた人間教育を実践し、確かな教養と豊かな人間性を兼ね備え、社会の発展のために献身的に貢献できる人材を輩出すること、学術の理論及び応用を教授研究し、自由な知の創造をはかり、もってその深奥を究めて文化の進展に寄与すること、地域社会に根ざしつつ、世界に開かれた教育・研究機関として、その成果を社会に還元することを通じて、人類の共存に寄与することを設置の理念とする。</p> <p>なお、成蹊学園では、2018年に成蹊学園サステナビリティ教育研究センターを設置するとともに、2019年には成蹊学園としてユネスコスクールの認定を受け、SDGsやESDの活動を推進することにより、大学のみならず併設する小学校、中学校及び高等学校とともに、文部科学省平成29年度告示小学校学習指導要領及び中学校指導要領の前文にも掲げられている「持続可能な社会の創り手」の育成に努めている。</p>	②教員養成に対する理念・構想	<p>本学は、「知育偏重ではなく人格、学問、心身にバランスのとれた人間教育の実践」を唱える学園創立者中村春二の教育理念を受け、“桃李”が人を惹きつけるように、世人が慕って自然と集まり従う、徳を備えた人物の育成を理想とし、「個性の尊重と人格陶冶による豊かな人間性の形成」という建学の精神を掲げて中等教育から出発した成蹊学園の伝統を受け継ぐ大学である。この理念・精神を成蹊教育の原点として学生一人ひとりの個性を尊重し育てることを大切にしてきた。大切に育てられた個性や人格陶冶による豊かな人間性は、視野の広い教養と高度の専門的知識・技能に裏打ちされていることも不可欠である。</p> <p>設置する文系4学部（経済学部・法学部・文学部・経営学部）と理工学部において、そうした願いの下に教養教育と専門教育に取り組んでいる。またこれら5学部が同一キャンパスにあることから、成蹊教養カリキュラムの授業やクラブ・サークル活動を通していろいろな価値観をもった学生同士の接触・交流が広がられており、お互いの個性を尊重し合う社会性を育てている。</p> <p>こうした理念・環境のなかで徐々に醸成される豊かな人間性と能力は、社会的要請である「豊かな人間性を持ち生徒を惹きつける個性的な魅力をもつ資質・力量の高い教員」という要件に合致したものにほかならない。本学はまさに社会の期待に応えられる教師を育て、送り出すための好適な条件を備えていると言って良いであろう。このような利点を大いに活かし、本学は「開放制教員養成制度」の趣旨に則って、教師としての責任感や愛情を育み、教職に関する深い教養と教育的技能を教授する課程を大学教育の一領域に位置付け、全学科・研究科における専門教育に応じた教科で、教職課程を構築することとした。広い視野を持ち、高度の専門的知識・技能、科学的研究精神を身につけ、理論的考察力においても実践的教育活動においても、生徒・保護者ばかりでなく、日本国民や世界の人の期待に応えて活躍できる教師を育成することを願うものであります。教育界に貢献できる教師を送り出すことは、大学としての社会的責任を果たすことになると考える。</p>
		学科等の「①設置理念」「②教員養成に対する理念・構想」	<p>成蹊大学文学部は、文化現象の総合的理解とその継承を基本理念とし、この目標にもとづき、日本および諸外国の過去から現在に至る社会・文化の多様な様相を多角的な視点や方法によって分析・研究するとともに、ますます多様化し複雑化しつつある社会・文化の諸状況の中にあっても自己の主体性を失わず、「時代と社会の変化に柔軟に対応できる自立的な人間」を育成することに努めることを理念とする。この理念の実現のために、少人数教育を基本とする教養教育および専門教育との適切な調和を考慮したきめ細かなカリキュラムによって、問題発見能力および多面的な分析能力の伸長を図ること、並びに言葉を通して形づくられた人間、歴史および社会の多様なあり方を考究し、共感を持って他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力を涵養することによって、社会的な活動を自律的に展開するための基礎を構築することが学部の教育研究上の目的である。これら学部の理念・教育研究上の目的に即し、国際文化学科としての具体的な教育研究上の目的（人材養成像）を次のように定める。</p> <p>（1）歴史・地域文化研究、文化人類学及び国際関係研究にまたがる専門科目を学びつつ、世界に関する広い知見と深い教養を修得させるとともに、情報収集・分析能力、さらには国内外で通用するコミュニケーション能力を育てます。歴史と文化を視座としながら、世界を時空的な広がりの中で理解し、グローバル化のなかで複雑さを増す現代、さらには未来と向き合う柔らかな力を涵養する。（2）世界や社会が直面する諸課題に柔軟に対処でき、かつ、異文化理解の実践を通じて文化間の架け橋となりうる自律的な人材を養成する。これらの教育研究上の目的、人材養成像等をもとに、「専門分野の知識・技能の修得」「教養の修得」「課題の発見と解決」「表現力、発信力」「多様な人々との協働」「自発性、積極性」の各項目に関して、以下の基準に到達するように編成された教育課程において、所定の単位を修得した者に対して学士（文学）の学位を授与とするディプロマ・ポリシー【略】を定めている。</p>	②教員養成に対する理念・構想	<p>国際文化学科では、幅広い知見に基づく情報収集・分析能力と広義のコミュニケーション能力を身につけ、文化間の媒介者となりうる人材の育成を目的としている。その教育課程を生かし、日本を含む世界における歴史的な事象についての認識と解釈、現代世界の動きの理解と諸課題への対処、および異文化理解の実践についての専門性を持ち、自律的な地球市民を育成する能力を身につけた教員を養成することを目標としている。</p>
文学部	国際文化学科	学科等の「③認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごと）」	<p>○中学校一種免許状（社会） 国際文化学科では、幅広い知見に基づく情報収集・分析能力と広義のコミュニケーション能力を身につけ、文化間の媒介者となりうる人材の育成を目的としている。その教育課程を生かし、日本を含む世界における歴史的な事象についての認識と解釈、現代世界の動きの理解と諸課題への対処、および異文化理解の実践についての専門性を持ち、自律的な地球市民を育成する能力を身につけた教員を養成することを目標としている。以上の目標を達成するために、「国際関係」「文化人類学」「歴史・文化研究」の3つの学問領域を中心に学際的な視点を養うことを重視している。世界が直面する今日的課題だけではなく、諸外国・文化圏の歴史と文化を学ぶことを通して、中学社会科教員に求められる知識を修得させたいと考えている。そして幅広い知見に基づく情報分析能力及び国際社会で通用する実践的なコミュニケーション能力を身に付けさせるため、双方向かつ発展的な授業を行っている。教職課程を履修する学生は、文学部国際文化学科の教職課程を履修することによって、中学社会科教員に必要とされる幅広い知識と知見を修得し、さらには「国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な資質」を身につけることができる。</p> <p>○高等学校一種免許状（地理歴史） 国際文化学科では、幅広い知見に基づく情報収集・分析能力と広義のコミュニケーション能力を身につけ、文化間の媒介者となりうる人材の育成を目的としている。その教育課程を生かし、日本を含む世界における歴史的な事象についての認識と解釈、現代世界の動きの理解と諸課題への対処、および異文化理解の実践についての専門性を持ち、自律的な地球市民を育成する能力を身につけた教員を養成することを目標としている。以上の目標を達成するために、「国際関係」「文化人類学」「歴史・文化研究」の3つの学問領域を中心に学際的な視点を養うことを重視している。世界が直面する今日的課題だけではなく、諸外国・文化圏の歴史と文化を深く学ぶことを通して、高等学校地理歴史科教員に求められる高い専門知識を修得させたいと考えている。そして幅広い知見に基づく情報分析能力及び国際社会で通用する実践的なコミュニケーション能力を身に付けさせるため、少人数のゼミ科目を設け、双方向かつ発展的な授業を行っている。教職課程を履修する学生は、文学部国際文化学科の教職課程を履修することによって、高等学校地理歴史科で必要とされる専門性を修得し、さらには「国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な資質」を身につけることができる。</p> <p>○高等学校一種免許状（公民） 国際文化学科では、幅広い知見に基づく情報収集・分析能力と広義のコミュニケーション能力を身につけ、文化間の媒介者となりうる人材の育成を目的としている。その教育課程を生かし、日本を含む世界における歴史的な事象についての認識と解釈、現代世界の動きの理解と諸課題への対処、および異文化理解の実践についての専門性を持ち、自律的な地球市民を育成する能力を身につけた教員を養成することを目標としている。以上の目標を達成するために、「国際関係」「文化人類学」「歴史・文化研究」の3つの学問領域を中心に学際的な視点を養うことを重視している。世界が直面する今日的課題だけではなく、諸外国・文化圏の歴史と文化を深く学ぶことを通して、高等学校公民科教員に求められる高い専門知識を修得させたいと考えている。そして幅広い知見に基づく情報分析能力及び国際社会で通用する実践的なコミュニケーション能力を身に付けさせるため、少人数のゼミ科目を設け、双方向かつ発展的な授業を行っている。教職課程を履修する学生は、文学部国際文化学科の教職課程を履修することによって、高等学校公民科で必要とされる専門性を修得し、「国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な資質」を身につけることができる。</p>		

様式第7号ウ 本来は認定課程ごとに作成するものであるが、まずは基本としてまとめて作成。今後別々にしていく。

<文学部国際文化学科> (認定課程: 中一種免(社会)、高一種免(地理歴史)、高一種免(公民))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	前期では、教育の基礎的理解に関する科目においては、教師となるために必要な知識と内容を把握し、教育に関する基本的な概念や理論、子どもの発達と各発達段階における特徴とそれに応じた学習メカニズムと支援の方法、などについて学び、教職への関心・理解および進路としての意識付けが各自でできることを到達目標とする。 教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、国際文化学科の主要な領域となる国際関係、文化人類学および歴史・文化研究の基礎となる「国際関係論入門」「文化人類学入門Ⅰ」「歴史学入門」などの科目を履修し、国際文化学科での学修の基礎知識を得ることを到達目標とする。
	後期	後期では、前期に引き続き、教育の基礎的理解に関する科目においては、教育改革、教育諸問題、改訂教育基本法・学校教育法の要点を理解するとともに学校教育の今後に対する考察を行うための知識と能力を身につけ、生徒指導および進路指導の実践的能力を身につけることを到達目標とする。 教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、前期に引き続き、3つの領域の基礎となる「国際政治経済学」「フィールドワーク論」「各地域の歴史と文化」国際文化学科の主要な領域となる国際関係、文化人類学および歴史・文化研究の基礎となる「国際関係論入門」「文化人類学入門Ⅰ」「歴史学入門」などの科目を履修し、国際文化学科での学修の基礎知識を確実に得ることを到達目標とする。
2年次	前期	前期では、教育の基礎的理解に関する科目等においては、1年次の概念的な科目から各論に進んだ科目を履修する。具体的には、教育課程のあり方、指導案作成や教育方法、情報通信技術(ICT)を活用した教育、教育相談とカウンセリングに関する基礎的な知識と技法、特別支援教育の内容および役割などへの知識と基礎的技能を習得していることを到達目標とする。 教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、1年次で学んだ3領域の基礎を前提として、1年次に履修できなかった科目および2年次以降配当の深い専門性のある科目を履修するとともに、「日本史概論Ⅰ」「世界史概論Ⅰ」「人文地理学」「自然地理学」など地理歴史および公民の一般的包括的内容の科目の履修によって、中学校社会科、高等学校地理歴史科および公民科の教科内容を習得していくことを到達目標とする。
	後期	後期では、教育の基礎的理解に関する科目等については、前期に引き続き、各論に進んだ科目を履修し、教育課程や授業を進める上での諸技法等を習得することを到達目標とする。 教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、前期に引き続き専門科目の履修、「日本史概論Ⅱ」「世界史概論Ⅱ」「地誌学」「現代の政治学」など地理歴史および公民の一般的包括的内容の科目の履修により専門知識の理解を高めるとともに、「社会科・地理歴史科教育法」「社会科・公民科教育法」において学習指導要領に示された中学校社会科、高等学校地理歴史科および公民科の目標及び内容、教科指導の基本的知識の習得していることを到達目標とする。
3年次	前期	前期では、道徳、総合的学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目においては、模擬授業とその検討を通じて、道徳、総合的学習の時間や特別活動などの基本的な指導の在り方を身につけることを到達目標とする。また、教科の指導法では、2年次後期に引き続き「社会科教育法A(主として地理歴史分野)」「社会科教育法B(主として公民的分野)」を履修し、教科指導の基本的知識、授業案の作成手順をふまえて、模擬授業によって、特に中学校における教科指導の具体的な内容を習得することを到達目標とする。 教科に関する専門的事項および学科カリキュラムの履修においては、専門科目の履修に加え、全員が「演習Ⅰ」を履修することとなる。少人数でおこなわれる演習において、専門テーマのみならず、自律的な学習やコミュニケーション能力という、教員として必要な資質を習得するとともに、4年次において全員が完成させる「卒業論文」に向けた学習の基礎をつくることを目標とする。

	後期	<p>後期では、次年度の教育実習の準備としての科目である「教育実習論」を履修し、教育実習の意義と課題を確認し、心構え、態度、基礎知識、実情、判断力および話し方や板書といった実践技能を修得することを到達目標とする。また、「教職特論演習Ⅰ」の履修で、卒業後の教員採用を視野に入れ、これまで学んできた教職、教科のみならず教員として必要とされる幅広い知識を得ることもできるようにする。</p> <p>教科の指導法では、「地理歴史科教育法」「公民科教育法」を履修し、2年次後期から履修した各教科教育法の知識を前提として、教科指導の基本的知識、授業案の作成手順を確実なものとした上で模擬授業を行い、教科指導の具体的な内容を確認させることを到達目標とする。</p> <p>教科に関する専門的事項および学科カリキュラムの履修においては、前期の「演習Ⅰ」に引き続き、全員が「演習Ⅱ」を履修する。少人数でおこなわれる演習において、専門テーマのみならず、自律的な学習やコミュニケーション能力という、教員として必要な資質をさらに習得するとともに、引き続き全員が「卒業論文」にむけた学習の基礎をつくることを目標とする。</p>
4年次	前期	<p>教育実習年度となり、「教育実習(中・高)」または「教育実習(高)」を履修する。この科目は、前年度後期の「教育実習論」に引き続き、教育実習の事前指導を受けたのち、実習校における実際の教育実習を行い、そして実習終了後の事後指導を受けることによって、学校教育を体験研究し、授業をはじめとする教員の基礎的な力量を身につけることを到達目標とする。</p> <p>教科に関する専門的事項および学科カリキュラムの履修においては、全員が「演習Ⅲ」を履修する。少人数でおこなわれる演習において、専門テーマのみならず、自律的な学習やコミュニケーション能力という、教員として必要な資質を習得する。さらに、学部での学修の集大成としての「卒業論文」を執筆するため、自らの研究に取り組む。</p>
	後期	<p>後期では、教職課程の集大成として「教職実践演習(中・高)」を履修する。これまでの教職課程の科目履修を振り返り、教員として必要な資質とは何かをもう一度問い直すことで、すでに備わっている事項と不足している事項を認識する。これにより、資質の高い教員をめざす力量を獲得することを到達目標とする。</p> <p>教科に関する専門的事項および学科カリキュラムの履修においては、全員が「演習Ⅳ」を履修する。少人数でおこなわれる演習において、専門テーマのみならず、自律的な学習やコミュニケーション能力という、教員として必要な資質を習得する。さらに、自らの研究を極めつつ、「卒業論文」を完成することが最大目標である。</p>

様式第7号ウ（教諭）

<文学部国際文化学科>（認定課程：中一種免（社会）、高一種免（地理歴史）、高一種免（公民））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	C	教職論	国際関係論入門		College English (Listening & Speaking) I	College English (Reading & Writing) I
		2	B	教育原理	文化人類学入門 I		情報基礎	基礎演習 I
		2	E	教育心理学	歴史学入門		健康・スポーツ演習 A	
					ヨーロッパの歴史と文化A			
	後期	2	D	学校と社会	国際文化論		College English (Listening & Speaking) II	College English (Reading & Writing) II
		3	L	生徒指導論	文化人類学入門 II		日本国憲法	基礎演習 II
		3	N	進路指導論	日本の歴史と文化 B			
					国際文化研究B			
2年次	前期				社会学入門			
		2	F	特別支援教育概論	平和学入門	学校経営と学校図書館		College English (Integrated Skills) I
		3	K	教育の方法と技術	民族文化論			基礎演習 III
		3	M	教育相談	比較文化研究A			
					日本史概論 I			
					世界史概論 I			
					人文地理学			
					自然地理学			
	後期				哲学の基礎			
		2	G	教育課程論	国際政治経済学	学習指導と学校図書館		College English (Integrated Skills) II
					フィールドワーク論			基礎演習 IV
					アメリカの歴史と文化 B			展示から見る歴史・文化
		3	R	ICT活用の理論と方法	日本史概論 II			
				社会科・地理歴史科教育法	世界史概論 II			
3年次	前期			社会科・公民科教育法	地誌学			
					現代の政治学			
		3	I	総合的な学習の時間の指導法	グローバル化の人類学	読書と豊かな人間性		演習 I
		3	H	道徳教育の指導法	アメリカの歴史と文化 A			
				社会科教育法 A	日本の歴史と文化 A			
	後期			社会科教育法 B	アジア・アフリカの歴史と文化 A			
					国際文化研究 A			
		3	J	特別活動の指導法	国際協力論	教職特論演習 I		演習 II
		4		教育実習論	ヨーロッパの歴史と文化 B	情報メディアの活用		世界の宗教文化
				地理歴史科教育法				
		公民科教育法						

4年次	前期	4		教育実習(中・高)		教職特論演習Ⅱ		日本文化・文化史特講A
								演習Ⅲ
								卒業論文
	後期	4		教職実践演習(中・高)	アジア・太平洋の歴史と文化B	学校図書館メディアの構成		演習Ⅳ
								卒業論文